

旅行二日目は幸運にも晴天。ホテル前には宇多川君の高級車がお迎えの超VIP待遇。越前海岸・東尋坊を目指す。まず海岸から張り出した周囲1キロの雄島で朝の散歩。粗暴な僧を懲らしめるために投げ込んだという謂われの「東尋坊」を見学。自殺の名所のイメージもあるが、日本海の荒波にそそり立つ断崖絶壁に奇岩、奇勝はなかなかの迫力。さすがに、この地域までは中韓台の団体ツアーは押し寄せていなかった。



冬の日本海を背に東尋坊の岩場で

芦原温泉で昼食のあと、京美人三人組は宇多川君とは離れ難く、近くの丸岡城を見学。私は一足先に金沢経由で帰路についた。

同級生五人での二日間の「大人の修学旅行」、ビジネスホテル分宿とあって「枕投げ」

はできなかったが、宇多川君はじめ皆さんのお陰で、至福の旅が実現、青春の思い出も甦り、学生時代の歌詞「♪なんの装いもせずに、口数も少なく……」が昨日のこのようでした。改めて誌面を拝借し、お礼申し上げます。

青春十八切符で

善光寺秘仏ご開帳の旅

山城・18回 松木 利夫

今回は、私が平成二十七年四月四日から三泊四日で青春十八切符を使って諏訪方面と長野善光寺に一人旅をした時の事を紹介します。

まずは、青春十八切符の説明です。既にご存知の方も多いと思いますが内容を簡単に書きます。春、夏、冬の三十日から五十日の期間限定でJRが発売している乗車券で、五回分が一八五〇円です。一回当たり二三七〇円で各駅停車や快速電車等の全国のJRの電車が一日乗り放題です。同じ区間なら複数の人で一枚の切符を利用することも出来ます。有料の特急等は特急券を買っても乗れません。私は関西から東京や、東京から盛岡等結構利用していますが、関西から東京までは数

回乗り換えて九時間から十時間程度かかりました。のんびりした旅が好きな方にお勧めの切符です。



筆者 松木利夫

次に長野の善光寺と秘仏ご開帳のご紹介です。善光寺は西暦六四二年に創建された本坊が二つあり、住職も二人おられるお寺です。本坊「大勧進」は天台宗、本坊「大本願」は浄土宗です。「大本願」は代々尼僧寺院で、現在のご住職は第百二十一世の鷹司誓玉大僧正です。



善光寺山門

「善光寺のご本尊」ご本尊は「一光三尊阿彌陀如来」で完全秘仏ですので誰も見た人はいません。ご開帳で姿を見せるのは本尊の分身として同じ姿で作られた前立本尊です。前立とは本尊に代わって立つという意味です。普段は宝庫に安置されていますが、数えて七年に一度のご開帳の期間中（実質六年毎の四月五日から五月末まで）だけ国宝の本堂の内々陣中央に遷されご開帳されます。

「回向柱に触れる」山門と本堂のほぼ中央、大香炉の手前に一尺五寸角（四十五cm）、高さ三十三尺（約十m）の回向柱が建立されます。回向柱の上部には「善の綱」が結ばれ、この綱は本堂に安置された前立本尊の右手につながっています。回向柱に触れることは、前立本尊に触れるのと同じ功德があり、前立本尊と結縁で叶うと言われています。

「戒壇めぐり」本堂の内々陣の地下に戒壇があります。照明はありませんので真つ暗な回廊を手探りで壁伝いに歩き、ご本尊の真下にある「極楽の錠前」を探します。その錠前に触れると、ご本尊と結縁されて極楽往生できると言われています。

「史料館を拝観」善光寺史料館、大勧進宝物館、大本願宝物殿には仏像、絵画、經典等が多数あります。重要文化財等も多数あります。

特に大勧進、大本願の宝物類は、見に来る人が少なく、ゆっくり見られます。善光寺史料館には山門の「善光寺」の新調前の古い方の大きな額があります。三文字の中に五羽の鳩の姿が隠されており「鳩字の額」とも呼ばれます。この五羽の鳩を探すのも楽しいです。

「お数珠頂戴」本堂でお勤めのため、両ご住職は毎日の早朝に本坊からの行列で本堂と往復されます。その途次、信徒等が本堂前の沿道にしゃがんでお迎えすると、お数珠を頭に触れて頂きます。これを「お数珠頂戴」と言い、ご住職に結縁し、功德を授かると言われています。

「参拝の要領」土日は人が多いので平日に参拝する。日中も人が多く回向柱に触れることや戒壇めぐりには長時間並ぶことになるので早朝に宿を出る。善光寺へは参拝の前日に到着しお寺の近くに宿泊する。私は前回のご開帳の初日（平成二十一年四月五日）に、たまたま、青春十八切符で長野に来ていて、善光寺のご開帳に出会い感動しましたので、今回もご開帳に是非来たいと思い、早目に旅行を計画しました。それでは一人旅の出発です。

平成二十七年四月四日（土曜日）

九時二十分に自宅を出発、JR茨木駅まで徒歩四十分。十時七分の電車に乗り、高槻、

米原、大垣で乗り換えて名古屋へ。名古屋で中央線に乗り換えるのですが乗り換え時間が三分しかないのにホームが変わるのを見落としていて、予定の電車に乗り遅れました。中央線は本数が少なく各停で上諏訪まで行くには二時間以上のロスです。仕方なく次の電車で中津川駅まで行きました。お蔭で、待ち時間に予定外の中山道歴史資料館、旧中山道、中津川宿脇本陣などを散策出来ました。予定より大幅に遅れて夜の八時過ぎに上諏訪駅に到着。上諏訪ステーションホテルにチェックイン後、近くの蕎麦屋（秋月そば本店）で地酒（真澄）とお蕎麦を頂きました。ハブニングも旅の楽しみです。

平成二十七年四月五日（日曜日）

この日は諏訪湖周辺を散策後に長野まで行く予定ですが、運賃が二三七〇円より安いので青春十八切符は使わずに通常の乗車券を買いました。ホテルでバイキングの朝食を腹一



八重垣姫像

杯食べて雨の中を七時三十分に出発して、諏訪湖畔に行きました。諏訪湖に浮かぶ八重垣姫像を見て諏訪高島城を見学しました。

徒歩で日本画家の伊東深永（朝丘雪路の父）美術館に行きましたが休館日でした。隣の伊東酒造（伊東深永の親戚）でお酒の試飲をして、本醸造横笛カッブを買いました。旅先では荷物になるのでお酒はワンカッブしか買いません。更に、徒歩三十分で諏訪湖畔に戻り、サンリツ服部美術館と諏訪湖間欠泉センターを見ました。間欠泉は10m以上も噴き上がり迫力がありました。



間欠泉センター

十三時五十分の電車で隣の下諏訪駅へ移動。雨の中を徒歩で一周約一時間三十分のコースを回ったのですが、駅からオルゴール博物館と歴史民俗資料館を見学して、諏訪大

社下社秋宮参拝までは順調だったのですが、ここから諏訪大社下社春宮に行く道を間違え

まして、またもやハブニングです。予定の電車に乗り遅れました。

ここで諏訪大社のご紹介です。諏訪大社は上社と下社に分かれ、上・下社に、各二社、



計四社あります。上社には、前宮と本宮、下宮社には、春宮と秋宮があります。諏訪大社は数えて、七年訪に一度（実質六年毎）に宝殿の造営と、各社殿の四隅に巨木を

曳き建てる神事

を行います。これを「式年造営御柱大祭」、通称「御柱祭」と呼び長さ約十七m、直径約1m、重さ十トンを超えるモミの大木を山から切り出し、人力のみで道中を曳き、最後に各社殿を開むように四隅に建てます。柱を山から里へと引き出す「山出し」が四月に、境内までの道中を曳き、御柱を各社殿の四隅に建てる「里曳き」が五月に、四社それぞれで行われます。次回は平成二十八年です。



下社春宮の御柱

「万治の石仏」についてご紹介します。春宮の脇、砥川の向こうの細道を行くと田んぼの中に万治の石仏があります。万治三年（一六六〇年）と記されており、およそ三五〇年もの間、鎮座し続けています。高さ二m余り半球状の自然石に頭が乗っており、伝説によると、春宮に石の鳥居を作る時、この石にノミを入れたところ血が流れだし、石工が驚き、この石に南無阿弥陀仏と祈ったとのことです。春宮の耐震工事の際に石仏と同じような礎石が発見されました。



万治の石仏

旅に戻ります。道に迷いながら漸く春宮にたどり着きました。予定を一時時間オーバーし

ていましたが、春宮の参拝と御柱を見学しました。御柱は迫力がありました。万治の石仏まで足を延ばしてから下諏訪駅に戻りました。下諏訪駅には平成二十二年に役目を終えた御柱と、万治の石仏のレプリカがありました。十六時五十五分の電車に乗り、長野駅に着いたのは、計画より一時間以上遅い十八時五十三分でした。善光寺に一番近いホテル「やま」まで徒歩二十五分で到着。翌日は朝が早いので早く寝ました。

平成二十七年四月六日（月曜日）

今日は雨も止んでおり、五時四十分にはホテルを出発。善光寺の参道を徒歩で進み、仁王門を過ぎ、仲見世から山門を過ぎ、回向柱に着きました。早朝でも結構な人出です。回向柱に触れ、柱にお参りをして、大本願の尼住職の行列を待ちました。大勧進の住職のお勤めは既に終わっていました。六時二十分頃に大本願の尼住職が来られ、待っていた大勢の信徒等は一斉にしゃがみ私もしゃがんでお数珠を頭に触れて頂きました。本堂に参拝し、尼住職以下大勢の僧侶のお勤めと一緒に読経しました。お勤めは浄土宗の日常勤行で、我が家も浄土宗の末寺の檀家ですので私も日常勤行は毎日暗唱で読経しています。お勤めが

終わり、本堂の地下の戒壇めぐりをしました。

六年前に来た時はご開帳の初日で日曜日でしたので地下に降りるのに一時間並びましたが、今

回は待たずに降りられました。暗闇の中を手探りで歩き、ご本尊の真下にある「極楽の錠前」に触れることが出来ました。

善光寺本堂の裏手に役目を終えた回向柱が十本、ひっそりと並んでいました。建立は六年間隔ですので、十本で六十年分と言うことになります。一番新しい回向柱は平成二十一年のもので、色は少々あせていましたが、まだ、そのままの姿で残っていました。古いものはど地面に接している部分が朽ちて短くなっていました。平成十五年のものは1mほど短くなり9mぐらいになっていました。一番古い昭和三十年（六十年前）の回向柱は1mぐらいいしか残っていませんでした。それより古いものは全て朽ちてしまったようです。あまり人が来ない場所でしたが、見学できて、よい記念になりました。



善光寺本堂

その後、善光寺の史料館を拝観し、大勧進を参拝の上、同宝物館を拝観しました。更に大本願を参拝して、同宝物殿も拝観しました。両本坊の仏像、絵画、経典等の保存状態が良好ではありませんでした。参拝者は多いのですが、宝物の拝観者は、まばらで、もっと多くの拝観者が来て拝観料を払ってくれば文化財の保存に役立つと思いました。

次に、善光寺山門を拝観しました。天女や蓮の障壁画で飾られた仏間があり、文殊菩薩と四天王が安置されていました。楼上の長押には四国八十八カ所の分身仏が祀られています。新調された「善光寺」の大きな額もあり、三文字の中に五羽の鳩の姿も確認出来ました。これで善光寺の参拝を終了し、善光寺の東隣にある長野県信濃美術館と同館に併設されている東山魁夷館に行きました。長野県信濃美術館は善光寺ご開帳記念企画「いのりの私たち」をやっていました。国宝の土偶と信濃の仏像の展示があり、見応えがありました。日本画家の東山魁夷の作品を展示している東山魁夷館は第VI期常設展をやっていました。「春兆」や「静唱」を中心に七十六作品が展示され、こちらも大変良かったです。

美術館から善光寺の仁王門に戻り、善光寺外苑の「西之門よしのや」へ試飲に入りました。

酒造とみそ作りのお店でお酒の試飲とみそ汁を頂き、雲山のワンカップを買いました。午後三時半になり、遅い昼食を善光寺仁王門前の蕎麦屋で、地酒（西之門）と蕎麦を頂きました。夜は善光寺と長野駅の中間にある、居酒屋「ちどり」に入りました。長野の地酒主体のお店で、お酒も料理も旨かった。ご主人夫婦は長野の人なのに、阪神タイガースの大ファンで、年に数回は甲子園に応援に行かれるそうです。これで長野の旅は終了です。明日は一日中、列車の旅で夕方には自宅に着く予定です。

平成二十七年四月七日（火曜日）

お土産を買って、長野駅八時十八分発の電車で帰途につきました。松本、中津川、名古屋、米原、高槻で乗り換えて、十七時三十五分に茨木駅に着き、十八時十五分に帰宅しました。ハブニングが一杯の楽しい一人旅でした。

旅行は事前の準備も楽しいです。パソコンで旅の行程や電車の時刻、宿の手配、旅先の観光情報等を調べるのも充実した時間になります。特に青春十八切符の旅は電車の乗り換え情報を十分に集めておく必要があります。スマホを持っていない私の場合は、予定の電車に乗り遅れた場合の対応も事前に準備します。個人での旅は、マイペースで行けるので、

旅行会社のツアーとは別の楽しみ方が出来ますよ。

今回の善光寺のご開帳は、平成三十三年（二〇二二年）の四月五日から五月末で、東京オリピックの翌年です。その時、私は七十三歳になります。それまで健康に留意して次回のご開帳も是非、行きたいと思っています。皆様もこの投稿を参考にして頂き、次回のご開帳に行って頂きますと嬉しいです。

雑感

山城・19回 石川 勉

還暦の頃の同窓会で、たまたまゴルフの話になり、中村良樹、金本隆雄、上田順一氏と、かれこれ7、8年、毎年春と秋に中村氏のホームコース「池田カントリークラブ」で同期四人が楽しんでいました。が、毎回ゴルフを楽しむと言うより、お互いのプレイに対し、けなすことはすれど、褒めることはせず、とにかくやかましく、それでもって笑えばなしのゴルフ会、もちろんプレイ後は近くの飲み屋で、時には北新地まで出かけ、延長戦、とにかくその日は楽しい一日、だから続いているのでしょー！



昨春、池田CCにて

昨秋は、一度泊りがけで、と言うことになり、金本氏の手配で北陸へと……予定をしていたところ、残念ながら上田氏が体調不良で行けなくなり、三人で一泊二ラウンドの山代温泉ツアーに出かけました。当然何時も通りのわいわいがやがやの珍道中でしたが、旅館での宴会中、当時ラグビーのワールドカップ開催中で中村氏のラグビー部での活躍話をいつも通り聞かされるはめに、と思いきや我が山城高校の大先輩（京都三中）に野上一郎と言う、昭和初期時代日本代表スタンドオフとして一世を風靡した名プレイヤーがおり、彼を最高の選手と言わしめたエピソードがあると……その場で早速グーグルで検索……なるほどと唸る、誇れる話題で、知らなかった私は、たまには中村氏もいい話をするわと思ったしだいです。

また、今春の再戦を約して北陸路を後にしました。

ところでスコアは……？

「まあまあ」と言うことで！

（ゲーグルより） 野上擁するオールジャパンと、オールブラックスに匹敵する実力を有するニュージージーランド学生代表とのマッチにおいて、接戦の中、終盤、野上のブレースゴールキックが入れば逆転できる場面となり、誰もが入ったと思ったそのボールに対し、審判は「ノーゴール」の宣託、観客もそして味方選手も抗議に行こうとしたとき、野上は制止し、自ら笑顔で「ノーゴール、ノーゴール」と叫び、味方を自陣にもどした。そして惜しくも敗戦したこの逸話が野上をして、ラグビーの真髄を永久に語らせ、野上一郎氏を最高のラグーマンとも言わしめました。（一部抜粋）

変わらぬ風景

山城・19回 酒井 正明

高校時代、最も仲の良かった友人の一人が前田剛君である。前田君とは1、2年の時、同じクラスだった。前田君との思い出はいろいろある。その中で、忘れられない小さな思

い出について少し書いてみたい。

学生服を着ていたのも、あれは高校1年の秋ごろだったと思う。前田君の家から二人で散歩にでかけた。妙心寺南総門から北総門を抜けて、仁和寺まで歩いた。当時の仁和寺は、拝観料をとらなかつたので、境内には自由に出入り出来た。二王門から中門をくぐり金堂まで行った。

金堂まで来ると、さすがに少し歩き疲れた。あたりを見回して腰を下ろせるところを探したが、適当なところが見つからない。金堂を見ると本体を取り囲むように欄干で囲われた回廊があり、回廊に上るための3段ほどの小さな階段が備え付けてある。座るにはちょうどいい。しかし金堂の真正面である。さすがにそこに座るわけにはいかない。正面にあるならひよっとして裏にもあるかもしれないと、ちよっとした冒険心から裏側に回った。あった。作りは正面階段と同じである。しかし周囲の趣は正面と全く違ってなんだか薄暗く、ひっそりとしていた。とにかくそこに二人並んで腰を下ろし、一息ついた。

改めてあたりを見回すと、すぐ目の前に雑木林があるのみで、実に殺風景なところだった。しかし私はそんな周囲の雰囲気とは全く関係なく、そこに座って前田君といろいろ話

をしたことが、本当に楽しかったという記憶がうっすらではあるが、確に残っている。高校に入って前田君という新しい友人を得たこと、友人と心置きなく話し合える時間があること、希望につながる有り余るほどの未来があること、これらが私を楽しくさせていたのだろうと、67歳の今になって改めて思うのである。



仁和寺金堂

7、8年前に家族と仁和寺を訪れる機会があった。懐かしさと好奇心から金堂の裏をそつとのぞいてみた。高1当時と殆ど変わらない風景だった。回廊に上る階段もひっそりと備わっていた。その階段を見ていると、なんと表現しにくい切ない懐かしさと、高校

生だった時の私と前田君の姿がほんやりと蘇ってきた。今も仁和寺と聞くと、金堂の裏の階段あたりはどうなっているのだろうか、当時のままなのだろうかという思いと、裏とはいえ国宝である金堂の階段に、畏れ多くも座り込んだ世間知らずの高校生二人が想い出されるのである。

サッカーは人生となりました

山城・19回 鈴木 貞雄

中学で始めたサッカー、希望する山城高校の合格発表日、上田稔さん（17期卒）、浅田福造さん（18期卒）のお誘いで



1962年1月8日 山城高対修道高（広島）決勝戦。
中学一年生時、この観戦がサッカーのはじまりとなる。

入部、長岡義一さん（14期卒）、山本和夫さん（18期卒）のご助言で早稲田大へ、卒業後は関西の住友金属グループに就職、

サッカーはそこそここのつもりが、尾崎彰さん（21期卒）、布野英巳さん（22期卒）、吉田

保治さん（26期卒）に煽られて、陸の孤島と言われた、茨城県鹿島町へサッカーとともに移り住み。その後は「本業」に務めたものの、Jリーグ発足後、「鹿島アントラーズ」に転籍。サッカーを職業とすることになってしまいました。

サッカーを通じて50数年、多くの皆様のお世話になって、サッカーは私の人生となりました。ご指導いただいた山城高校、村山康裕先生（故人）、森貞男先生（同窓会会長）には心より感謝申し上げます。

一昨年、定年を迎え、鹿島アントラーズを退職することとなりました。まさか、日本で、サッカーで、「飯が食える時代」が到来するなんて、想像すら出来ぬことでした。そんなことで長い間、京都を離れておりましたが、退職を機に高槻に転居してまいりました。また、今春よりサッカー部OB会長に推挙いただき、各年代のOBとともに務めております。同窓の皆様にはお付き合い方よろしくお願い申し上げます。

山城の応援にはよく出掛けます。先日は高校生が目標とする「全国高校サッカー選手権大会」の府予選が行われ、山城は準々決勝で敗退となりました。残念です。応援に出掛けた宇治「太陽が丘」は、出場校の生徒や父兄

でたいへんな賑わいでした。昔は、こんなに立派な施設も無く、こんなに多くの人たちが応援するなんてことはなかった。それに、部員も総勢30人程度でしたが、今は、一学年30人、全学年では100人を超える大所帯とのこと、ご指導の先生、コーチの皆様ご苦労さまです。新たなチームに期待したいと思います。



1966年8月 青森総体 村山先生の激！

高槻でのんびり過ごしておりますが、月に二・三度はJリーグのマツチコミショナーを担当しております。齢となってもサッカーに関われること、各地のサッカー仲間に出会えること、幸いなことであります。

マツチコミショナーは、試合の進行、審判の判断、観客の満足などスタジアムの全てを

見届け、評価・アドバイスする役割です。浜頭昌宏さん(18期卒)、川北信幸さん(24期卒)、松山吉之さん(37期卒)もマッチコミショナーとして活躍されています。

Jリーグで監督をされている奥野遼佑さん(39期卒)、辛島啓珠さん(42期卒)、衛藤元さん(44期卒)、Jクラブ幹部の細川浩三さん(42期卒)、山田正道さん(52期卒)たちとはスタジアムでお会いします。

あまた、各界でのご活躍を存じず失礼いたします。



練習の後のひととき

テレビで

石塚啓次さん(45期卒)を見ました。国立競技場を沸かせた天才選手がスベインで「うどん屋」さんを始められた紹介番組

です。森貞男先生や二村昭雄さん、釜本邦茂さんのご活躍は高名ですが、時代は違っても、直接の繋がりはなくとも、「山城」と知

ると、妙に仲間意識が生まれ、嬉しく思います。

「日本サッカーの父」デットマール・クラマー氏が逝去されました。釜本さんを、日本のサッカーを、国際舞台へと導かれた指導者です。私が高校一年生であつたか、二年生であつたか、その頃に、森先生が招かれ、ご指導いただきました。世界で著名な指導者とも知らず、小柄で、赤ら顔のクラマーさんの熱あるご指導をよくよく覚えております。ご冥福を祈りたいと思います。あれから50年、二度目の東京オリンピックが2020年に開催されます。

スポーツに励む高校生年代にとっては大きなチャンスです。がんばって下さい。

イングリランドで開催されたラグビーワールドカップは、思いもよらぬ日本の活躍に、盛り上がりしました。エディー・ジョーンズ・ヘッドコーチの厳しいトレーニング、耐え抜いた五郎丸歩選手の活躍、「あの」ポーズ。南アフリカ戦、終了のホイッスルが鳴る前のワンプレー、感動でした。引き分けて試合を終えるのか、「勝」にチャレンジするのか。徹底し、「勝」にこだわったキャプテン、リーチ・マイケル選手、日本のラグビー史を一変しました。外国選手とのフィジカル差はトレーニングで克服できる、そんな結果に、新たな「スポー

ツ文化」の幕開けを感じました。

「スポーツ庁」が誕生しました。金メダリストの鈴木大地さんが初代長官に就任され、就任の席上、長官は「公園でキャッチボールやサッカーができるようにしたい」と話されておりました。サッカー大国、ブラジルの街の光景はストリートサッカーです。裏道や空き地では「ペラード」と呼ばれる遊びのサッカーをよく見かけます。私たちは「北野天満宮」の境内で「三角ベース」をやったものです。いつの日か、公園には「禁止」が張り出され、また、遊具も危険だと撤去されています。「サザエさん」の「カツオ」と「中島くん」は、窓ガラス割り、叱られていました。ご近所迷惑でしょうが、長官が取り組もうとする公園の開放は大賛成です。

山城高校卒業後、50年、半世紀となります。学校を訪れると、校舎もグラウンドも、なにもかもがすっかりと変わり、閉じられていた南門は妙心寺道に通じる通学門と開放されました。友達と語らった噴水のある中庭はこの辺りだったかな。グラウンドはゴールポストはと思い出されます。

公立高校の仕組みも、学校体育の環境も変化しているようですが、現役の選手は、しっかりと目標を持ち、目標達成に向かって

トレーニングに励んでいたのだと思います。

「チャレンジ」することにより得られるものは多くあります。いつも期待し、そして、山城高校を応援しています。



『青年の像』

同窓の皆様へ

山城高校サッカー部の活躍をこ期待いただき、ご支援ご声援をお願い申し上げます。

随想

山城・19回 谷利 幸雄

関西人と南部人。一見おかしな言葉の組み合わせのように思われるだろうが、多いに共通性がある。関西人とは、日本の西半分の人を意味し、南部人とは、アメリカ南部の人達なのだけれど、共に、国を分断して一国の未

来を決定する、大戦争を戦い敗れた人達であり、共にその後、国の政治、経済、外交と言った分野で、批判的立場にいた人達と言えると思う。

さて、この関西人の特徴だが（あるいはアメリカの南部人についてもしかりなのだが）、関ヶ原の合戦で勝利した関東軍は、江戸に幕府と言う名の政府を置き、政治を行い、法律を作ったのに対し、甚だその政治、法律を受け入れることに懐疑的であった。

そしてその関西人達は時に、その関東で作られた法律に対して、ある種の抵抗を示したのだが、その手法の多くは、揚げ足を取る事であった。小さな事をつつき、それにこだわり、嫌がらせをしたのであった。それが少なくともある意味で江戸時代の267年間の関東と関西、そして関東人と関西人のスタンスを形造っていた。

翻って、幕末、明治維新以来、つまり江戸時代以後149年と言う15世紀が経ち、関西の中心であった皇室やその周りの公家衆の大半が関東である東京に行かれて、政治、経済の運営に当たられ、関東、関西の垣根は消滅したはずであった。にも関わらず未だに京都や滋賀やその周辺や関西では、この関西人のあまり良くない、敢えて言わせてもらえば姑

息な、人の揚げ足取りを得意げにする行為を目にし、耳にするのはつらいものである。

そしてこの頃思うのだが、我々京都人や関西人は、そろそろ言う悪い意味の、関西人は止めにし、もっと政治や経済や、法律に対して前向きになってもいいのではないだろうか。そうして、関西人から脱皮して、もっと普通の日本人になっても、そろそろいいのではないだろうか。

ベルリン観光

山城・19回 中村 美知子

朝夕肌寒い5月初旬ベルリンに降り立った。個人旅行なので空港の建物から外へ出て先ず左右見当をつけて踏み出す。街へ行くバスがあった。重いスツーカーをバスに持ち込んだ。ホテルはいつも駅の近くを予約しておく。チェックインの際に一枚のバスを渡された。これはチェックアウトの日まで有効な乗り放題の交通機関の「バス」だそう。乗車時に見せるだけでいいという説明。エエー本当に、こんなのくれるの！出発前にガイドブックを讀んでいて、一回券は350円（乗り換えも含めて1時間有効）、一日券は900円、7日

券は4000円、美術館や観光名所の入場券を含めたバス等々いろいろあつて迷つていた次第。ホテルのサービスらしくそのバスにはホテルの名前と日程が書き込んである一枚の紙切れ。私は事前に知る由もなかった。

到着したのは日曜日でガイドブックによると電車で二つ目の駅前で週末だけ「蚤の市」が開かれているということとでさっそく駅に向かった。ベルリンの中央駅は何層にもなつて



チェックポイント チャーリー

おり電車の各ホームとショッピングモールが一体化されていてエスカレーターやエレベーターが吹き抜ける広い空間内を動いている。

両側にはいっぱい店が並んでいて大勢の人が歩いている。自転車は車内に持ち込み可でハンドルを操作しながら昇降機で移動している風景が目新しい。自転車を置くスペースをとった車両もある。しかしながら切符売り場も駅員も見当たらない。行き交う人々の間に警察

官が腕を組んでそこかしこに立っている。毎日曜日は夕刻よりサッカーの試合があるとかでまだ時間が早いのにユニホームを着てビールを抱えた賑やかなグループの男性達が立っていた。彼らに目指す駅を尋ねたら同じ電車だと誘導され最上階のSバーンのプラットホームまで連れて行ってくれた。車内でもタオルを掲げたり盛り上がりつつあった彼らと日本人のドイツで活躍しているサッカー選手の話等をして別れ下車した。改札がない。勿論乗



ブランデンブルグ門

車時もゲートがなかった。その後駅構内地下のUバーンと呼ばれる地下鉄や駅前から各方面に出ているバスや路面電車にも乗ったがバスを見せることは

なかった。検札員が乗り込んで来て刻印した乗車券やバスの提示を求められた時に所持していなければ重い罰金が課せられるとガイドブックには書いてあったが一度も遭遇しなかった。但し、バスでは一回券を持っている人が乗車した時に中にある機械で刻印するの

は見たことがあったが、果たして他の乗客はバスなり定期券を持っているのか。六日間の内一日はボツダムという歴史的な市街へ急行電車で足を伸ばした。そこまでがバスの有効距離であった。バスを提示することは最終日に空港へ戻るまでなかった。あまりに利便なベルリン観光であった。



東ベルリン時代の信号が今も使われている

第1回たんぼラグビー

in 京都・福知山

山城・38回 中西 一喜

2015年5月17日(日)

このイベントは田植え前のたんぼでラグビーをしようという世界初の試みです。

ラグビーは、雨でも台風でも大雪でも試合は中止になりません。悪条件の中行われた試合が名勝負として語り継がれたりもします。

「どんな条件でもやる」にスポットした大会が、京都府福知山市で行われました。田植え間近のたんぼでラグビーをやるという発想から始まった大会です。参加するのは、地元京都の高校やラグビースクールを中心に、遠くは広島や徳島からも駆けつけるといふ第1回とは思えない多彩さでした。開始を待つ選手たちの前に、クボタスピアーズの面々が現れました！「このたんぼで使われている農機は、クボタ製ですから。」と語るの、立川キャブテンをはじめとするトップリーガーたち。確かに入り口にあったのはク



泥まみれになりながらボールを追う

ボタのトラクターでした。国内トップ選手と飛び入りのおっちゃんがあんぼで戦うなんて……とにかく僕たちも有志OBで参加しました。初戦はなんと、いきなりそのクボタスピアーズでしたが、田んぼという最大のハンディを生かしての先制トライ！最終1トライ差に本気で悔しがるスタートでした。フリーカメラマンに、ダイビングトライの写真を懇願されるほど、珍しい風景だったようです。続いて次々に泥んこになる選手たち。そのどれもが、笑顔、笑顔、笑顔。幼稚園児から還暦以上と、非常に幅広い参加層ながら観戦者や参加者全員がとても楽しそう。泥んこの後はみんなで温泉へいってリラックス。世代を超えたつながりで楽しい1日を過ごしました！

社会に出たって山高生

山城・61回 吉川 晟史

高校を卒業して、早7年がたとうとしています。今回、文集のお話を頂き、文章を書きつつ山城高校時代を懐かしんでいます。僕は第100期生という記念すべき年に入学しました。この年では制服が新しくなりました。

今では一目で山城高校生とわかるようになりましたが、当時は2種類の制服が校内に入りまじりなんとも不思議な雰囲気であったことを今でも覚えています。

現在は、大学を卒業し理学療法士になり社会に出て日々奔走しています。社会人2年目の新米の先生ではありますが、訪問リハビリとして利用者様のお宅を訪問しリハビリをしています。そして訪問で回る地域なのですがなんと母校山城高校の近所を回っています。大学は他府県だったのですがこういった形で地元に戻ることで「卒業しても縁はあるものだ」と感じ、学生時代に何度も通った道を今度は社会人として通ることに「自分も大きくなったなあ」と驚き、毎日を頑張っています。

利用者様の中には京三中卒業生の方もいらっしゃる。リハビリ中にお互いの思い出話や自分が知らない昔の学校のことを教えて頂くこともあり、時には熱中しすぎて仕事であることを忘れてしまうことも（笑）。でも、山城高校の存在を身近に感じる事が出来、今の僕にとっての大きな支えとなっています。

まだまだ未熟者ですが、これからは利用者様の大きな支えとなれる先生になれるよう日々精進していききたいと思っています。

ハガキによる 会員からのたより

漕艇・ラグビー部を思い出し

三中・31回 平井 邦男

役員さん毎度ご苦労さん。此の度の「双ヶ丘」拝読。掲載者三中36回卒が一番古参。然し、まだ古参が生きている。第31回「昭和15年卒」。しかも今でも平均4人ほど毎月1回ホテルのランチに有志だけ集まり、雑談に、老いの一時を忘れ、楽しんでる。私、当時の黒服上級生に漕艇部に勧誘され、元々スポーツ好き、1年生から入部、毎日曜日蹴上まで市電、京津で大津へ、それから艇庫まで行き、漕いで瀬田へコースをとり、練習した。琵琶湖一周の合宿は竹生島で水がはいり、汲み出しながら何とか浮御堂に逃げた事を思い出す。試合前は授業を1時間繰り上げ京都駅から汽車で瀬田まで練習に行ったもんだ。3年生になりラグビー部から又勧誘あり、入部した。創立75周年記念に部員の名前を記載した名簿「1924年～1999年」が出されたが、現在は31回生での部員生存者は私だけ。

当時は三高・緑が丘・寺田のグラウンドに出かけ、銭湯でユニホームに着替え、試合終われば銭湯で体を洗ったものだ。当時は軍事教練があり、配属将校、他二人の軍人がいた。私はスケート場で教護連盟に見つかり、注意された。厳しさが厭になり、4年終了で慶大予科に受験合格し、自由になって楽しんだ。漕艇部の記録が何も無いのが寂しく思う。昭和18年12月1日、学徒徴兵京都16師団通信隊強兵組に配属され、19年11月、第三航空軍に配属され、シンガポールからタイ国のツーウランに赴任、敗戦となり、支那軍の捕虜になり、鄭重なる厚遇を受け、21年6月無事帰還。22年復学。現在の自分が健康長寿でいる。拙文だが、疲れたので、こころでワードのキイをおく。今は泰然・悠然の気持で逍遙している。感謝々。ではお元気で。

【付記】若人よ「太平洋戦争を風化してはならない」戦前の男子国民の義務は年齢20歳になれば徴兵の義務が生じ、徴兵検査があり、軍事に耐えられる者は入隊し、又戦場に行つた。学生は「在学証明」があれば26歳まで延期できた。それが文科系の学生は「徴兵延期停止入隊若い命を捨てた」現在の様に留学・現在の海外旅行なんかとんでもない。現在の学生には羨望だ。

三中・34回 東野 裕

会誌九号ありがとうございました。今回も素晴らしい編集にたい感謝申し上げますのみです。現在九十歳、なんとか元気。今後とも宜しくお願い申し上げます。

三中・34回 二本 茂

いつも御世話になり有り難うございます。

二本茂(父)は平成二十七年(2015)二月二十二日にインフルエンザから肺炎になり亡くなりました。長い間有り難うございました。

次男 二本秀夫

三中・36回 一谷 強

懐かしい母校、京三中の同窓会誌、ありがとうございました。楽しく、いろいろの思い出のうちに読ませて頂き、感無量です……。母校の更なる発展、先生方や在校生のみなさまの充実とご多幸、ご健勝を心からお祈り申し上げます。併せて同窓のみなさまのご健勝をも心よりお祈り申し上げます。

三中・36回 武内 頼彬

同窓会誌をお送り頂きまして有り難う御座います。夫武内頼彬は昨年平成二十六年十月

二十四日に八十六才にて亡くなりました。主人の残した書類から多分三十三十六回生ではなかったかと思われます。戦時中教練で京都から奈良まで銃を担いで歩かされた話、名古屋の工場での話等聞きました。主人の話を思い出し金一封を送らせて頂きます。平和の大切さをしみじみ感じるこの頃です。

三中・37回 中村 勝美

中村悦子

三中・37回 平岡 静哉

「暮らしやすさ都市」の世界ランク

米ニューヨークを本拠とする大手コンサルタント会社、マーサー社は世界の230都市

は一つもなかった。同ランク最下位の230位はバグダッド（イラク）で、政治情勢の不安定さが関係したと考えられる。同ランキン
グは政治、社会、経済、文化環境、医療、教
育、公共サービス、公共、商業、居住、自然
環境、など、さまざまな要素に基づき作成さ
れたものである。

三中・39回 山田 安造

として全体の取りまとめをしています。自宅にも練習用の舞台を造り、弟子の稽古をしたり、毎月2回は滋賀県まで出稽古に行ったりして忙しい日々を送っているからだといえます。三中時代は山岳部に所属しており、足腰丈夫で駅の階段は走って登っています。毎晩夕食後は1km程速歩で歩いています。月1、2回夕方4時頃となるとそわそわしてきます。それは祇園、木屋町、先斗町をぶらつき、日が落ちると馴染みの路地裏のスナックに消え入ります。焼酎の水割りを飲み乍ら昔の歌を二、三曲歌ってご機嫌になっています。頭は黒く染めて、10年取って75才と言う事になっています。昔は午前様でしたが、今は10時には帰宅していますので、家内も「5時から男、10時に帰る」といってあきらめています。この調子で90才までいさられるかな？

三中・39回 塚脇 通成

京三中第39回卒、山城第一回卒の者です。三中の一年生の時、京都丹波橋から奈良まで徹夜で歩きました。二年生の時は、近郊の農家の手伝い、水田の草取り、麦刈り、大変でした。三年生になると、体育館、雨天体操場に、三菱重工が機械を入れ、飛行機のエンジンの吸入弁を作っていました。八時間三交替

で徹夜でもグライNDERを回してやっておりました。危険な作業です。私は学校の近くに住んでたので、寝床の枕元にいつも防空頭巾と鉄兜ゲートルを置いて、夜中でも空襲警報のサイレンで飛び起きて身支度をして、学校へと走り、村田銃を持って門衛を務めました。十五才でよく頑張ったと思います。

もう戦争はイヤです。平和が何より。今の学生さんは、思う存分勉強し、遊び、生活を楽しんで下さい。前途洋々の将来を見据えて！

秋の川

三中・39回 弓削 季也

神殿へ踏み出す一步淑気満つ
物芽出ず園児の列の乱れたる

くぐりてもくぐりても虚茅の輪かな

前の世は含羞草なり撫で仏

飛び石に合わぬ歩幅や秋の川

古里は大字小字いのこずち

小さき手が聖樹に吊す願ひ札

(昭和30年、日野草城主宰「青玄」入門、その後「花筐」を経て平成20年から今日まで「石の声」代表。本名 弓削 治)

三中・40回 山城・2回 松尾 二郎

八十四才迄生きてこれ目下元気に生活しています。山城高校時代にバスケット部の小森先生にしこかれ、お陰で一回から三回迄国体へつれて頂き、今では考えられない遠征にお米を持参した思い出、腹が空いて困った事、現在では考えられない思い出、卒業して大阪船場で商売を始め、人には云えない苦労がありました。バスケットで「しこかれ」時のことを思ったら……と乗り越えて三十才から七十五才迄、八十才で胃癌発見、全摘手術、目下胃なし生活なれど元気に老いを楽しんでいます。一回の人生、日々楽しんでいきます。これが京三中・山城魂と思っています。

山城・11回 西山 剛史

住所変更をお願いします。

国立競技場最後のサッカー

山城・12回 北中 昇

いつも色々な方とお会いすると、まだサッカーやっているのかいと声をかけていただきます。そうです、まだやっています、と答えています(今年で74歳になりました)。思い

返せば、1959年1月全国高校サッカー選手権大会に優勝して56年が経ちます。電電公社に入社して電電近畿サッカー部で30歳までサッカーをやるのが出来ました。それから60歳からシニアサッカーをやりだして現在に至っています。

昨年に国立競技場でロイヤル（オーバー70歳）サッカー東西対抗戦に参加してきました、これは全国300名の応募の中から180名が選考され出場しました。試合方法は東日本と西日本に分けて、それぞれ16名ごとのチームで15分ハーフで行われました。私のチームは5番目で、ポジションはセンターフォワードで出場しましたが、残念ながら引き分けとなりました。素晴らしい天気と絨毯のような芝生の上で、楽しくサッカーができたのは、この世の思い出としていつまでも残ると思います（ユニホームは記念品として頂きました）。国立競技場は近々工事が始まりますので、今の競技場ではこの大会も最後となりました。

1969年から天皇杯全日本サッカー選手権大会の「元旦決勝戦」が始まり、1976年から全国サッカー選手権大会が関西から移動して開催され、「国立競技場のピッチに立つ」が全国の若者の合言葉になりました。こ

の流れから1993年にはJリーグの開幕試合の会場となり、サッカーだけで6万人の大観衆を集めスタンドを満杯に出来ることが証明され、「サッカーの聖地・国立競技場」と言われるようになりました。

皆さんによく言われることは、激しいサッカーをこの年までよくやるね？ それは試合後のビールを酌み交わし、コミュニケーションを計り、楽しく身体を動かす事が健康で介護予防にもなる事と思い、今後、生ある限り続けていきたいと答えています。

山城・15回 宮本 照夫

高校時代はスポーツは無縁でしたが、40歳を過ぎてから、地元でソフトテニスを楽しんでいます。山城高第5回卒のTさんとも対戦しますが、ボロボロに負けています。

山城・36回 神川実千代

同窓会誌「双ヶ丘」いつも送付して頂きありがとうございます。住所変更お願いします。

山城・66回 高林千愛子

この度は、会誌をいただきありがとうございます。私は今、関西大学へ入学し、体育会

弓道部に所属しています。多忙な毎日ですが、充実しています。山城高校で学んだことを生かしつつ、今後も頑張っていきたいと思っています。

山城・66回 中西 拓人

この度は会誌をいただきありがとうございます。私は立命館大学へ入学し、小学校の教員を目指しています。

子どもに関わるアルバイトやボランティアを通じて教員への思いを深めています。山城高校、立命館大学での学びを活かし、将来への歩みを進めていきたいと思っています。

山城・66回 林 卓矢

この度は会誌をいただき、ありがとうございます。私は現在、関西大学にて体育会自転車部に所属し、サイクルサッカーという競技をしながらも、心理学や職業指導について学びを深めています。

第9号6ページ下段13行目（高須氏文中）に誤表記がありましたのでお詫びして訂正します。

・事物用語事典・事物用語辞典

各期・各会の報告

「さくら会」の開催状況について

三中・39回 四方 修

直近のさくら会は昨年12月7日に、京都全日空ホテルで22名参加のもと、賑やかに、楽しく、元氣よく、終始いたしました。

最後に校歌を合唱し、少なくとも米寿までは続けて開催しようと拍手で締めくくりました。



15回卒業生の2015年の活動

山城・15回 岩田 勲

我々15回卒業生は2016年に殆どの方が年男、年女（1944年生まれの猿年）となり72歳になりますが如何や72歳とは思えないほど元氣な我々を紹介しましょう。

「二人目」は北海道函館に在住の林康文君です。彼は2015年3月から5月にかけて四国八十八ヶ所を自力で一人行脚され元氣に5月の連休に京都へ入洛されました。それを祝う有志数人による歓迎会を「楽庵」で行いました。少し瘦せて居られましたが元氣そのものでした。彼の話によると数年後には再度挑戦するように話していました。

「二人目」は文字信男君（USAシアトル在住）2015年9月初めから10月半ばにかけてシアトルから奥様と二人でやはり四国八十八ヶ所を自力で行脚（47日間）され、やはり京都へ入洛され10月20日過ぎに有志数人で「楽庵」において歓迎会を行いました。やはり彼も数年後には再度挑戦するように話していました。

他には2015年1月18日（日）には恒例の新年会を「楽庵」で30人近い人数で5時間ほど騒ぎ、山城高校時代の話題で盛り上がり

ました。

9月13日（日）には3回目の「学芸会」を双ヶ岡のライブハウス「双園」で行い、森貞男先生のピアノ伴奏で「校歌」を全員で歌い開演しました。演奏者等は次の方々です。ピアノ（森先生、阪本悦子、説田代子）、尺八（青合幹夫）、バイオリン（守屋道治）、ギター（三橋秀樹）、他に朗読（石田章子）、詩吟（中田公義）、シャンソン（中村美陽子）、ウエスタン（三橋秀樹）、総合司会は伊藤光義君で2時間ばかり楽しく愉快に過ごしました。入場者は50人ほどで満員状態でした。夕方からは有志25人程で「楽庵」で懇親会を楽しみました。

11月8日（土）～9日（日）には第8回目の有志による白浜温泉旅行に15名（男性9名、女性6名）で行って来ました。遠くは北海道、仙台、千葉からの参加者もあり、あいにくの雨模様でしたが皆さんの明るさで（写真参照）アドベンチャーワールドでは雨にも降られず、可愛い双子のパンダちゃんも見られ、ホテルでは楽しくカラオケで盛り上がり、2日間を有意義に過ごせ親睦も計れたと思います。

11月18日（水）～22日（日）には恒例の「作品展」（写真、井内、岩田、小笹、加倉、阪本、



西山、松本、守屋、山北)、(油絵、前川)、(水彩画、石田)、(手芸、説田)を鳥品丸姉小路東入る作「万華鏡ミュージアム」で行いました(一部写真参照)。



180名程の方に見に来ていただき出展者一同満足でした。

以上この他にも写真クラブでは毎月撮影会、例会を行い腕を磨くよう頑張っています。またゴルフクラブでは毎月1回例会でプレーをされ技術を向上されています。また両クラブ共会員を募集しています。希望の方は岩田まで(090-7498-4819)へ連絡下さい。

最後に15回卒業の方にお知らせです。2016年6月4日(土)午後1時から烏丸京都ホテルで15回卒業全体の同窓会を行います。案内発送は4月初旬の予定です。住所等に変更がある方は岩田まで連絡下さい。

2年6組クラス会(菊水)

山城・19回 中村美知子

今年の春は雨が続いたにもかかわらず当日は朝から晴天で気温がかなり高くなった4月18日土曜日。溢れんばかりの観光客が往来する四条通り、南座前の老舗洋食店「菊水」で2年ぶりに山城19回卒業2年6組の同窓会が始まった。今回は過去最多の参加者20名を迎えた。21人になるはずだったもうひとりが急遽欠席となったのが残念であったが事前に

メッセージと写真を送ってくれたので参加者全員が目を通して彼女を思慕した。自己紹介ではそれぞれがユニークな発言をしておおいに盛り上がった。高校時代からの個性は変わらず。二次会には16名が出席。四条大橋を渡り賀茂川沿いの対岸の残った桜を見ながら宴は夜更けまで続いた。



二ロク同窓会

3年1組クラス会

山城・19回（代表幹事）片山良一

新緑が濃くなる5月16日、御所に隣接するホテルにおいて〈3年1組クラス会〉が催されました。参加者は18名（男子11名、女子7名）。還暦を過ぎてからのクラス会も、もう3回目になりますがそれでも今回が初めての参加



者が7名、遠方からの参加者も3名おられました。

近況報告では、卒業後それぞれ豊かな人生を歩まれ、時には苦しい時期もあったけど、今となつては良き思い出となり、楽しく歓談しました。途中には、ビンゴゲーム（景品付き）を挟み2時間あまり、青春に戻って懐かしい時を過ごしました。

幹事（代表 片山良一）7名で開催の準備をしました。



山城高校校章



京三中校章

同窓会ホームページのご案内

京三中・山城高校同窓会のホームページがあります。

事務局情報・お知らせ・学年便り・アルバム・沿革・校歌・会員便り・会誌・会員の随筆・会員の作品などの大変充実した内容です。ぜひごらんください。「京三中・山城高校同窓会」で検索。

皆様の便り・作品・記事等を掲載させていただきますので、左記のアドレスへお送り下さい。

yamashirokou_dousoukai@yahoo.co.jp



京都新聞社の御厚意により、平成八年六月に同新聞紙上に連載されました京三中学徒勤労動員の記録『防人の詩』を毎号ご紹介しています。(全34話)

『防人の詩』(十七)

さきもり うた

暦の日付けが十月を告げるころ、京都三中の学徒たちが愛知県半田市に動員されてから、はや三カ月が過ぎようとしていた。彼らが生産に励んでいる中島飛行機半田製作所の周辺にも日一日と秋色は濃くなっていた。

その動員先の日々を四年生の一学徒の日記に追うと――

「十月二日(月・晴)起床の合図に飛び起きる。朝礼時に玉碎勇士への感謝黙祷の式あり。我等は事実をいかに見るべきか。我等は三省して奮励努力せねばならない。午前中は本工場へ部品連絡。午後は工場内での作業。黙々と作業に精励す。この日、いままでの出勤率が展示された。我等の班は九十二・七%で第二位であった」

「十月十日(火・晴)午前中は支持金具、取り付け板などのヤスリ掛け、および治具の作製。しかし、今日は何となく体がだるい。ふとんの配給あり」

「十月二十七日(金・雨)豪雨の音に目を覚ます。今日も何となく体がだるい。」

体のだるさは精神力で補おう。廊下で班内点呼。直ちに自己の荷物の整理、および廊下の清掃、朝飯、朝礼。その後雨の中を素足で出勤。作業は午前中がパイプ口のグラインダー掛けとヤスリ掛け。午後は足掛けの組み立て部品、および整型部品のヤスリ仕上げ。帰路は道路上也も暗く、傘もなきたため苦勞する。このようなときには、つくづく家のことを思い出す」

「十一月六日(月)点呼の合図と同時に起床。起床後五分間で掃除。直ちに整列、点呼、体操と続く。洗面の時間もなくなり食事。朝礼後、京三中和烏丸商業、園部中、敦賀商、福井商業の五校が集まり、査閲官閣下より試問があった。軍人勸諭、および統率の大権などに関する試問、さらに勤労動員に対する決意についての試問なり。特に「誠心をもって作業をし、誤りなきものを作れ」と強調された。夜、菓子の配給あり」

「十一月十一日(土)一日中、足掛け蝶番の作業。夜、寮の食堂にて映画会あり。日本ニュースとともに「あの旗を撃て」の映写である。もつとも映画の方はトーキーのスイッチ飛び、無声で、そのうえに画面がはつきりせず遺憾であった」

「十一月十三日(月)朝礼時、予科練全員志願についての校長先生からの話あり。予科練には年齢適格者は全員がうけるよう、軍からの要望が

あったこととなり。午前中は銃座組み立て作業の手伝いであったが、十時ころに突如、空襲警報発令。直ちに作業を中止して、近くのお宮の森の中に退避す」

この予科練への志願要請は大挙して反攻に転じた米軍の攻勢を阻止するため、工場内の学徒たちだけでなく、彼らの京都の自宅の保護者にも学校長名での要望書が送付されていた。その文面は――

「父兄各位殿、戦局は一層に重大化し航空機の増産と、これが搭乗員の養成とは戦勝上、必須緊急の事にて、海軍当局にありては優秀なる幹部搭乗員を得るため今回、中学校在生にして本年十二月一日にて満十五歳以上なりし者は、身体状況いかんにかかわらず一応、全部を出願させたき意向に候。この際、御子息にも出願ご奨励にあずかりたく切望するものである」

このようにして「産業戦士」としての勤労動員のみならず、軍への志願を要望する文書まで彼らのところには届けられていた。このとき、動員先の三年生、五嶋紫郎君(十四歳)は――「日記のなかに『ふとんの配給あり』との一語があったが、こいつがスフの製品で、中の薄綿はすぐに片方に固まり、あとはすけすけのスフ生地のみとあって、十一月に入った夜風はこのほか冷たく感じられたのだった」

紙媒体で紹介された母校

「週刊エコノミスト」と「朝日新聞」に山城高校が取り上げられました。

週刊エコノミスト2015年4月21日号では、連載「名門高校の校風と人脈」の第139回として、所在地や略史、現在の「エコ校舎」を紹介した後、多くの卒業生の名が挙げられています。わずか2ページなので、一人ひとりとは詳しく紹介されず、いささか総花的に列挙された感が否めませんが、いわば定番のスポーツ文化人や芸能人だけでなく、写真家の水野克比古さんや作家の和久峻三さん、変わったところでは元大阪府警本部長の四方修さんら、各分野の多彩な顔ぶれが紹介されており、「あの人も同窓か」と感心させられます。

朝日新聞2015年3月17日付京都版では、企画記事「まなびバ！教育2015」に山城高校が取り上げられ、聴覚障害で補聴器を使う生徒に配慮し、床をこするギーギーという不快な音を軽減するため、机や椅子の脚にテニスボールがかぶせてあること、自転車の施錠率が府内の高校でトップであること、ドイツの高校と互いに生徒が訪問し合うなど国際交流にも力を入れていること——などが紹介され、所在地の地図や著名OBの名、クラブ活動の現況が載っています。母校の「いま」がよく分かる内容で、学校としての充実ぶり、後輩たちの活躍を誇らしく思えます。

